北空知新聞
発行所
北空知新聞社
購読のお申込み・ご意見・ご要望は
〒074-0001
深川市1条11番16号
TEL (0164) 23-5509
FAX (0164) 23-5529
メールアドレス
kitasorachi@galaxy.ocn.ne.jp

若年性認知症の４患者

北竜の田園地帯を駆け抜ける

「北商ロードレース」初の試み

若年性認知症の理解深める機会に

【北竜】若年性認知症の患者が、このほど、町内であったマラソン大会にサポーターと一緒に出場し、北竜の田園地帯を駆け抜けた。自然豊かな広々とした空間を走ることで、患者がストレスを発散したほか、一般ランナーとマラソンを通じて触れ合うことで認知症の社会理解を深める機会となった。若年性認知症の人がマラソン大会に出場するのは初めて。認知症の治療薬などを開発・販売する製薬会社「エーザイ」（本社・東京）が、若年性認知症の社会理解を深めてもらうことやマラソンの効能についての事例をまとめるため本人とその家族、一般ランナーの意識調査もした。近く結果を学会誌に紹介するほか、若年性認知症の関連団体に報告する。

オレンジ色のサンバイザーをかぶり走る若年性認知症患者とサポーターら

「若年性認知症」は、十八歳以上六十四歳以下までに発症が認められた場合を指す。

有識者によると、患者に対する法整備は遅れているとされる。

住む自治体によって介護福祉的なサービスを受けるよう勧めたり、ときには心の病を受け入れる医療機関に隔離・収容せざるを得ないケースもあるという。

「医療」と「福祉」の狭間（はざま）で、若年性認知症患者とその家族の声は埋没しているとされる。両分野から注がれるスポットライトは中途半端なまま、地域の受け皿整備が遅れているのが現状だ。

今年二月に福岡県であった「全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会」の中で、出席者から八月二十一日に北竜町である「第四十七回北商ロードレース大会」へ「出場してみては」との発案があり、主催する「北竜町体育協会」（澤田正人会長）、「若年認知症家族会彩星（ほし）の会」「若年認知症家族会サポートセンター」、北竜の「若年認知症家族会空知ひまわり」（千場功代表）と「首都大学」（東京）の教授・学生らの協力を得て実現した。

五、六十代の男性認知症患者四人（町内一人、東京三人）が、家族・サポーターらと一緒に走った。距離は五キロが一人で、三人が三キロにチャレンジ。全員完走したという。

「若年認知症家族会空知ひまわり」の杉山泰裕監事は「患者さんの中には、『人の役に立ちたい』『まだ、働ける』という強い思いを抱くケースが多い。今回マラソンに出場した四人は達成感を得たと思う」。

罹患者の家族からは、「いい気ばらしになった」という声が関係者に寄せられるなど、あすを思う気持ちをはぐくんだようだ。

今回のマラソン参加について「若年性認知症に対する社会的な理解が遅れている中で、一般の人にまじって走ったことに意義がある」（杉山監事）と評価する。

「エーザイ」は、大会当日、「ジャパン・マーケティング・エージェンシー」（JMA）＝本社・東京＝に委託してアンケート調査した。

患者には、インタビューを中心に声を拾った。

JMAによると、患者からは「自信がついた」「みんなと一緒に走って元気が出た」「視野が広がった」――などの声があった、という。

一般ランナーには「若年認知症の方が参加されているのを見てどう思ったか」「若年認知症の方が野外イベントに参加することをどう思うか」――などを質問した。

「エーザイ」は、近くまとまる調査結果を公式ホームページなどでニュースリリースするほか、学会誌に事例紹介し、若年性認知症のケアに役立ててもらう考えだ。

「若年認知症家族会空知ひまわり」の千場代表は「患者とその家族は『参加して良かった』と話している。みんなの協力があって実現できた。来年もぜひ参加してみたい」と話している。